

一般社団法人 日本応用数理学会
2024（令和6）年度定時社員総会

日時：2024（令和6）年6月21日（金）16:00～17:30

会場：国際文献社アカデミーセンター会議室（東京都新宿区山吹町）およびオンライン

議事：

- 第1号議案
2023（令和5）年度事業報告の件 [1～4頁]
- 第2号議案
2023（令和5）年度決算の件 [5頁～17頁]
2023（令和5）年度監査報告の件 [18頁～21頁]
- 第3号議案 役員選任の件
（報告事項：選挙結果，任期満了）
理事候補者
相島健助，大林一平，片岡一朗，坂上貴之，代田健二，
関根晃太，長井秀友，松尾宇泰，丸野健一
監事候補者
花谷嘉一
- 第4号議案
2024（令和6）年度事業計画の件 [22頁]
- 第5号議案
2024（令和6）年度予算の件 [23頁～25頁]

終了後：

新フェロー任命式

2023年度業績賞報告

第20回研究部会連合発表会優秀講演賞表彰式

2024年5月24日 理事会

一般社団法人日本応用数学会 2023（令和5）年度事業報告

本学会は2023（令和5）年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）下記のとおり事業を行った。

1. 学会誌「応用数理」の刊行

33巻2号（6月）、3号（9月）、4号（12月）、34巻1号（3月）の4号を発刊した。

33巻（1～4号）の総頁数232頁 [245]

33巻1号から、各記事の執筆者に原稿料の支払いを開始した。

2. JSIAM Online Magazine の編集・公開

3. 論文誌「日本応用数学会論文誌」の刊行

33巻2号（6月）、3号（9月）、4号（12月）、34巻1号（3月）の4号を電子版としてJ-Stageで公開した。

33巻（1～4号）の総頁数177頁 [154]

4. Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics の編集（年3回発刊）

5. JSIAM Letters（電子英文速報誌）の刊行

Volume 15（25篇）、Volume 16（6篇）をJ-Stageで公開した。

6. 出版

シリーズ応用数理の続巻の企画を検討した。

7. 年会の開催

ICIAM2023（8月20日～25日、早稲田大学）が開催されたため、年会は開催されなかった。

8. 研究部会の活動（次頁の研究部会一覧を参照）

（ア）今年度は23研究部会の活動推進が行われた。

（イ）2024年3月4日～6日に対面形式（実行委員会：長岡技術科学大学、数理設計研究部会）で研究部会連合発表会を開催し、399名[474]の参加を得て盛会裡に終了した。（講演190件[199]）

（ウ）研究部会活動報告を学会ウェブで公開した。

（エ）12月より「非線形問題の高性能解法と可視化技術に関する研究部会」が準備研究部会として活動を開始した。

9. 各種委員会活動の推進

国際活動委員会、ネットワーク委員会、総務委員会等の諸活動が精力的に進められた。

10. 海外の応用数理学会との交流

- (ア) ICIAM2023 (8月20日～25日、早稲田大学)を開催(日本学術会議、日本数学会と共同主催)し、86カ国から5,584名(一般4,028人、学生1,556人)の参加を得て盛会裡に終了した。開催に尽力された方々、および参加者の記録は、学会誌(24巻1号)に掲載されている。
- (イ) ICIAM2023において、ICIAM Industry Prizeを支援した。
- (ウ) International Council for Industrial and Applied Mathematics(ICIAM)のメンバー学会である。特に、ICIAMの公式ウェブサイト <https://iciam.org/>を運用している。
- (エ) オーストラリア数学会(AustMS)、SIAMとは相互協定を締結している。

11. 他学会等との交流

- (ア) 日本数学会、統計関連学会連合とは懇談会を開催し、様々な活動で連携している。また、数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会を共同で開催している。
- (イ) 日本シミュレーション学会、日本計算工学会とは密接な情報交換を行った。
- (ウ) 横断型基幹科学技術研究団体連合、学術会議計算力学小委員会、日本計算力学連合(JACM)、HPCIコンソーシアム、男女共同参画協会連絡会、理論応用力学コンソーシアムのメンバー学会である。
- (エ) 日本医用画像工学会(JAMIT)と大会参加優遇制度などについて覚書を交わした。

12. 会員・賛助会員の現状(2024年3月31日現在)

会員数は1,406名[1,437]になった。

(入会67名(正49、学18)、退会98名(正76、学22)(退会は、会員資格喪失者を含む))

賛助会員は22社[22] 40口[41]となった。(退会0、口数変更1)

個人賛助会員は、1名[1]である。

名誉会員は11名[13]となった。

13. 表彰

- (ア) 論文賞(論文誌、JSIAM Letters、JJIAM)6件[5]を表彰した。
- (イ) ベストオーサー賞(学会誌)2件[2]を表彰した。
- (ウ) 年会若手優秀講演賞0件[5]を表彰した。
- (エ) 年会優秀ポスター賞0件[2]を表彰した。
- (オ) 研究部会連合発表会優秀講演賞3件[3]を表彰した。
- (カ) 第17期フェロー4名を任命した。
- (キ) 業績賞理論分野1件[0]、応用分野0件[1]を選考した。

14. 若手層・女性研究者との連携強化

- (ア) 男女共同参画学協会連絡会女子中高生理系選択支援ワーキンググループによる「女子中高生夏の学校」が対面開催され、実行委員長およびポスター展示・キャリア相談担当として理

事および元理事が参加した。

(イ) 2023年11月より1年間、男女共同参画学協会連絡会の幹事学会を務める。

15. 産業界・社会との交流促進

応用数理ものづくり研究会技術セミナー（第10期14回講演、懇談会1回を含む）を開催し13社[16]の参加を得た。

16. 協賛等

外部学協会等と41件[41]の協力関係を結んだ。

17. 数理科学振興の政策課題の検討

文部科学省研究振興局基礎・基盤研究課と数理科学振興の政策課題について意見交換を行った。

18. その他

(ア) 稲盛財団からの寄附金により、国際的に活動する女性研究者を支援するために、稲盛財団基金積立金を設立し運用している。具体的には、ICIAMにおけるOlga Tausky-Todd Lectureの支援にあてる。

(イ) 理事会の開催されない月に理事連絡会を開催した。

備考：[]は、2022年度実績

日本応用数理学会 研究部会一覧

- 「ウェーブレット」研究部会
- 「応用カオス」研究部会
- 「応用可積分系」研究部会
- 「折紙工学」研究部会
- 「科学技術計算と数値解析」研究部会
- 「機械学習」研究部会
- 「行列・固有値問題の解法とその応用」研究部会
- 「計算の品質」研究部会
- 「産業における応用数理」研究部会
- 「数理医学」研究部会
- 「数理政治学」研究部会
- 「数理設計」研究部会
- 「数理的技法による情報セキュリティ」研究部会
- 「数理ファイナンス」研究部会
- 「数論アルゴリズムとその応用」研究部会
- 「CAEモデリングとデータ活用」研究部会
- 「離散システム」研究部会

「連続体力学の数理」研究部会
「若手の会」研究部会
「環瀬戸内応用数理」研究部会 (地域研究部会)
「幾何学的形状生成」研究部会
「位相的データ解析」研究部会
「連続最適化」研究部会

以上

貸借対照表

2024年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数学会
一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	30,341,564	29,107,320	1,234,244
未収金	4,071,330	3,575,500	495,830
前払金	170,940	0	170,940
流動資産合計	34,583,834	32,682,820	1,901,014
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
固定資産合計	20,000,000	20,000,000	0
資産合計	54,583,834	52,682,820	1,901,014
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	262,021	118,590	143,431
前受会費	7,202,000	7,597,000	△ 395,000
預り金	31,251	0	31,251
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	7,565,272	7,785,590	△ 220,318
負債合計	7,565,272	7,785,590	△ 220,318
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	47,018,562	44,897,230	2,121,332
正味財産合計	47,018,562	44,897,230	2,121,332
負債及び正味財産合計	54,583,834	52,682,820	1,901,014

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数学会

一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	40,000	82,000	△ 42,000
正会員	28,000	44,000	△ 16,000
学生会員	12,000	38,000	△ 26,000
受取会費	17,676,250	18,075,250	△ 399,000
正会員	15,053,250	15,287,750	△ 234,500
学生会員	610,500	725,000	△ 114,500
賛助会員	2,012,500	2,062,500	△ 50,000
事業収益	3,110,689	6,192,008	△ 3,081,319
応用数理広告料	65,000	75,000	△ 10,000
応用数理定期購読料	263,120	259,545	3,575
論文誌掲載料	400,000	200,000	200,000
年会収益	0	2,784,000	△ 2,784,000
セミナー収益	385,000	505,000	△ 120,000
研究部会収益	1,442,064	1,637,000	△ 194,936
著作権料収益	555,505	731,463	△ 175,958
雑収益	100,552	16,154	84,398
経常収益計	20,927,491	24,365,412	△ 3,437,921
(2) 経常費用			
事業費	9,490,351	11,333,378	△ 1,843,027
応用数理刊行事業費	5,122,001	4,586,751	535,250
委託費	2,151,765	2,180,640	△ 28,875
会議費	14,000	0	14,000
印刷製本費	2,471,340	2,298,153	173,187
諸謝金	484,896	107,958	376,938
論文誌刊行事業費	363,178	335,727	27,451
委託費	363,178	335,727	27,451
JSIAM-Letters刊行事業費	1,178,100	584,980	593,120
委託費	1,178,100	584,980	593,120
JSIAMOnlineMagazine刊行事業費	763,846	303,558	460,288
年会事業費	0	3,137,345	△ 3,137,345
人件費	0	34,000	△ 34,000
委託費	0	2,262,373	△ 2,262,373
会議費	0	7,640	△ 7,640
通信運搬費	0	2,120	△ 2,120
賃借料	0	694,250	△ 694,250
雑費	0	136,962	△ 136,962
セミナー事業費	87,959	193,014	△ 105,055
会議費	0	76,076	△ 76,076
諸謝金	87,959	116,938	△ 28,979
研究部会事業費	1,975,267	2,192,003	△ 216,736
人件費	305,280	334,400	△ 29,120
委託費	1,277,880	1,414,037	△ 136,157
会議費	41,892	0	41,892
旅費交通費	19,111	26,550	△ 7,439
通信運搬費	0	179,213	△ 179,213
賃借料	121,356	0	121,356

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
諸謝金	72,390	102,774	△ 30,384
雑費	137,358	135,029	2,329
管理費	9,315,808	10,809,453	△ 1,493,645
JJIAM購入費	198,000	237,600	△ 39,600
活動促進費	98,266	56,020	42,246
関連団体等会費	192,319	178,332	13,987
保守費	1,577,081	1,288,844	288,237
事務委託費	6,302,155	7,874,878	△ 1,572,723
委託費	3,955,418	3,890,258	65,160
印刷製本費	106,854	45,749	61,105
通信運搬費	705,773	729,847	△ 24,074
消耗品費	25,460	29,034	△ 3,574
HP関係費	1,508,650	3,179,990	△ 1,671,340
会議費	408,871	223,219	185,652
雑費	320,532	740,200	△ 419,668
法人関連経費	218,584	210,360	8,224
経常費用計	18,806,159	22,142,831	△ 3,336,672
評価損益等調整前当期経常増減額	2,121,332	2,222,581	△ 101,249
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	2,121,332	2,222,581	△ 101,249
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,121,332	2,222,581	△ 101,249
一般正味財産期首残高	44,897,230	42,674,649	2,222,581
一般正味財産期末残高	47,018,562	44,897,230	2,121,332
Ⅱ 正味財産期末残高	47,018,562	44,897,230	2,121,332

予算対比正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会

一般会計

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	50,000	40,000	10,000
正会員	50,000	28,000	22,000
学生会員	0	12,000	△ 12,000
受取会費	17,040,750	17,676,250	△ 635,500
正会員	14,352,750	15,053,250	△ 700,500
学生会員	638,000	610,500	27,500
賛助会員	2,050,000	2,012,500	37,500
事業収益	2,055,000	3,110,689	△ 1,055,689
応用数理広告料	75,000	65,000	10,000
応用数理定期購読料	240,000	263,120	△ 23,120
論文誌掲載料	480,000	400,000	80,000
セミナー収益	460,000	385,000	75,000
研究部会収益	500,000	1,442,064	△ 942,064
著作権料収益	300,000	555,505	△ 255,505
雑収益	1,000	100,552	△ 99,552
経常収益計	19,146,750	20,927,491	△ 1,780,741
(2) 経常費用			
事業費	9,470,000	9,490,351	△ 20,351
応用数理刊行事業費	5,220,000	5,122,001	97,999
委託費	2,400,000	2,151,765	248,235
会議費	0	14,000	△ 14,000
印刷製本費	2,300,000	2,471,340	△ 171,340
諸謝金	520,000	484,896	35,104
論文誌刊行事業費	400,000	363,178	36,822
委託費	400,000	363,178	36,822
JSIAM-Letters刊行事業費	1,050,000	1,178,100	△ 128,100
委託費	1,050,000	1,178,100	△ 128,100
JSIAMOnlineMagazine刊行事業費	800,000	763,846	36,154
セミナー事業費	500,000	87,959	412,041
諸謝金	500,000	87,959	412,041
研究部会事業費	1,500,000	1,975,267	△ 475,267
人件費	1,500,000	305,280	1,194,720
委託費	0	1,277,880	△ 1,277,880
会議費	0	41,892	△ 41,892
旅費交通費	0	19,111	△ 19,111
賃借料	0	121,356	△ 121,356
諸謝金	0	72,390	△ 72,390
雑費	0	137,358	△ 137,358
管理費	8,740,000	9,315,808	△ 575,808
JJIAM購入費	300,000	198,000	102,000
活動促進費	100,000	98,266	1,734
関連団体等会費	190,000	192,319	△ 2,319
保守費	1,300,000	1,577,081	△ 277,081
事務委託費	6,100,000	6,302,155	△ 202,155
委託費	4,220,000	3,955,418	264,582
印刷製本費	200,000	106,854	93,146

予算対比正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会
一般会計

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
通信運搬費	1,030,000	705,773	324,227
消耗品費	50,000	25,460	24,540
HP関係費	600,000	1,508,650	△ 908,650
会議費	250,000	408,871	△ 158,871
雑費	250,000	320,532	△ 70,532
法人関連経費	250,000	218,584	31,416
経常費用計	18,210,000	18,806,159	△ 596,159
評価損益等調整前当期経常増減額	936,750	2,121,332	△ 1,184,582
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	936,750	2,121,332	△ 1,184,582
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	936,750	2,121,332	△ 1,184,582
一般正味財産期首残高	44,897,230	44,897,230	0
一般正味財産期末残高	45,833,980	47,018,562	△ 1,184,582
Ⅱ 正味財産期末残高	45,833,980	47,018,562	△ 1,184,582

財産目録

2024年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数学会
一般会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	預金現金	普通預金	運転資金として	23,717,752
		みずほ銀行根津支店(普)ノ1140839		11,546,393
		みずほ銀行麴町支店(普)ノ1282010		11,749,515
		三菱UFJ銀行(普)ノ0424593		239,860
		三井住友銀行(普)ノ2969442		181,984
	未収金	郵便振替 会費用	運転資金として	6,623,812
				6,623,812
			会費収入(クレジット決済分)	4,071,330
			研究部会参加費(クレジット決済分)	2,174,000
			論文誌別刷	1,164,000
前払金		論文誌別刷	40,000	
		ICIAM2023立替 年会slack使用料	693,330 170,940	
流動資産合計				34,583,834
(固定資産) 基本財産	基本財産			
		三菱UFJ銀行(定)ノ0036919		20,000,000
		三井住友銀行(定)ノ00692621		10,000,000 10,000,000
固定資産合計				20,000,000
資産合計				54,583,834
(流動負債)	未払金	Google、Amazon等	システム月額使用料(クレジット決済分)	262,021
		想隆社	WEBサイト保守費等	154,071
		三秀舎	論文誌J-STAGEアップロード	51,150
			学会誌原稿料	17,600
			研究会経費	5,000
	前受会費		研究会経費	34,200
			翌事業年度以降会費	7,202,000
		正会員		6,285,000
		正会員(シニア)		506,000
		学生会員		261,000
預り金	賛助会員(法人)		150,000	
	四谷税務署	源泉徴収税	31,251	
未払法人税等	新宿区都税事務所	2023年度法人税	70,000	
流動負債合計				7,565,272
負債合計				7,565,272
正味財産				47,018,562

貸借対照表

2024年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数学会
国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
未収金	730,000	0	730,000
流動資産合計	730,000	0	730,000
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
特定資産	1,399,200	17,004,953	△ 15,605,753
特定資産合計	1,399,200	17,004,953	△ 15,605,753
固定資産合計	1,399,200	17,004,953	△ 15,605,753
資産合計	2,129,200	17,004,953	△ 14,875,753
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,672,845	0	1,672,845
前受金	0	9,505,000	△ 9,505,000
流動負債合計	1,672,845	9,505,000	△ 7,832,155
負債合計	1,672,845	9,505,000	△ 7,832,155
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	456,355	7,499,953	△ 7,043,598
正味財産合計	456,355	7,499,953	△ 7,043,598
負債及び正味財産合計	2,129,200	17,004,953	△ 14,875,753

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数学会
国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	239,926,736	0	239,926,736
国際交流事業収	239,926,736	0	239,926,736
雑収益	0	88	△ 88
経常収益計	239,926,736	88	239,926,648
(2) 経常費用			
事業費	246,970,334	4,354,968	242,615,366
国際交流事業費	246,970,334	4,354,968	242,615,366
人件費	23,614,988	0	23,614,988
福利厚生費	1,459,270	0	1,459,270
委託費	133,084,639	4,017,904	129,066,735
会議費	27,006,391	0	27,006,391
旅費交通費	2,019,662	0	2,019,662
印刷製本費	1,002,342	0	1,002,342
通信運搬費	4,432,830	0	4,432,830
什器備品費	17,953,546	0	17,953,546
消耗品費	3,708,176	0	3,708,176
諸謝金	4,571,475	0	4,571,475
広告宣伝費	13,348,135	0	13,348,135
表彰関係費	667,650	0	667,650
支払寄付金	204,500	0	204,500
雑費	13,896,730	337,064	13,559,666
経常費用計	246,970,334	4,354,968	242,615,366
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 7,043,598	△ 4,354,880	△ 2,688,718
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 7,043,598	△ 4,354,880	△ 2,688,718
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 7,043,598	△ 4,354,880	△ 2,688,718
一般正味財産期首残高	7,499,953	11,854,833	△ 4,354,880
一般正味財産期末残高	456,355	7,499,953	△ 7,043,598
II 正味財産期末残高	456,355	7,499,953	△ 7,043,598

予算対比正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会
国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益	200,000,000	239,926,736	△ 39,926,736
国際交流事業収	200,000,000	239,926,736	△ 39,926,736
雑収益	100	0	100
経常収益計	200,000,100	239,926,736	△ 39,926,636
(2) 経常費用			
事業費	195,700,000	246,970,334	△ 51,270,334
国際交流事業費	195,700,000	246,970,334	△ 51,270,334
人件費	0	23,614,988	△ 23,614,988
福利厚生費	0	1,459,270	△ 1,459,270
委託費	195,000,000	133,084,639	61,915,361
会議費	0	27,006,391	△ 27,006,391
旅費交通費	0	2,019,662	△ 2,019,662
印刷製本費	0	1,002,342	△ 1,002,342
通信運搬費	0	4,432,830	△ 4,432,830
什器備品費	0	17,953,546	△ 17,953,546
消耗品費	0	3,708,176	△ 3,708,176
諸謝金	0	4,571,475	△ 4,571,475
広告宣伝費	0	13,348,135	△ 13,348,135
表彰関係費	700,000	667,650	32,350
支払寄付金	0	204,500	△ 204,500
雑費	0	13,896,730	△ 13,896,730
経常費用計	195,700,000	246,970,334	△ 51,270,334
評価損益等調整前当期経常増減額	4,300,100	△ 7,043,598	11,343,698
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	4,300,100	△ 7,043,598	11,343,698
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,300,100	△ 7,043,598	11,343,698
一般正味財産期首残高	7,499,953	7,499,953	0
一般正味財産期末残高	11,800,053	456,355	11,343,698
II 正味財産期末残高	11,800,053	456,355	11,343,698

財産目録

2024年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会
国際交流事業会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	未収金			730,000
	その他			730,000
流動資産合計				730,000
(固定資産) 特定資産	特定資産			
		みずほ銀行(普) / 3000023	国際交流事業運営資金として	1,399,200
固定資産合計				1,399,200
資産合計				2,129,200
(流動負債)	未払金			1,672,845
			一般会計立替等	1,672,845
流動負債合計				1,672,845
負債合計				1,672,845
正味財産				456,355

貸借対照表

2024年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会
稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
特定資産	2,499,650	3,000,613	△ 500,963
特定資産合計	2,499,650	3,000,613	△ 500,963
固定資産合計	2,499,650	3,000,613	△ 500,963
資産合計	2,499,650	3,000,613	△ 500,963
II 正味財産の部			
1. 一般正味財産	2,499,650	3,000,613	△ 500,963
正味財産合計	2,499,650	3,000,613	△ 500,963
負債及び正味財産合計	2,499,650	3,000,613	△ 500,963

正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会
稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
雑収益	27	51	△ 24
経常収益計	27	51	△ 24
(2) 経常費用			
事業費	500,990	0	500,990
稲盛財団基金事業費	500,990	0	500,990
経常費用計	500,990	0	500,990
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 500,963	51	△ 501,014
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 500,963	51	△ 501,014
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 500,963	51	△ 501,014
一般正味財産期首残高	3,000,613	3,000,562	51
一般正味財産期末残高	2,499,650	3,000,613	△ 500,963
II 正味財産期末残高	2,499,650	3,000,613	△ 500,963

予算対比正味財産増減計算書

2023年 4月 1日から2024年 3月31日まで

一般社団法人 日本応用数理学会
稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
雑収益	300	27	273
経常収益計	300	27	273
(2) 経常費用			
事業費	500,000	500,990	△ 990
稲盛財団基金事業費	500,000	500,990	△ 990
経常費用計	500,000	500,990	△ 990
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 499,700	△ 500,963	1,263
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 499,700	△ 500,963	1,263
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 499,700	△ 500,963	1,263
一般正味財産期首残高	3,000,613	3,000,613	0
一般正味財産期末残高	2,500,913	2,499,650	1,263
II 正味財産期末残高	2,500,913	2,499,650	1,263

財産目録

2024年 3月31日現在

一般社団法人 日本応用数理学会
稲盛財団基金会計

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(固定資産) 特定資産	特定資産	稲盛財団基金運営資金として	2,499,650
	三菱UFJ銀行(普)ノ0860997		2,499,650
流動負債合計			2,499,650
負債合計			2,499,650
正味財産			2,499,650

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理は税込方式を採用しております。

2. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次の通りである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
補助金	おかやま観光 コンベンション協会	0	258,064	258,064	0	-
合計		0	258,064	258,064	0	

附属明細書

1. 該当事項なし

一般社団法人 日本応用数理学会
代表理事 速水 謙様

2023(令和5)年度 税務監査報告書

2023(令和5)年度の会計につき税務監査の結果を以下の通りご報告いたします。

年 度：第12期、自2023(令和5)年4月1日 至2024(令和6)年3月31日

実施日：2024(令和6)年4月19日(金)

方 法及び確認事項：

原始資料との突合、預貯金残高の検証、帳表類の保管状況の確認、総勘定元帳と決算書の残高の照合、源泉所得税の徴収・納税状況の確認及び資産負債の細目及び内訳の確認など

結 果：領収書や請求書などの原始資料が月別かつ日毎に整理され、日々の金銭による収支は複式簿記により適切に処理されています。

預貯金残高は通帳の金額と合致しており、報酬及び人件費の源泉所得税の徴収及び納付状況も適正です。また、2022年度の法人住民税の納付がされていることを確認し、2023年度の法人住民税が2023年度において未払計上されていることを確認いたしました。

収益事業について、税引前利益で5,047,697円であることを確認いたしました。

2023年度の消費税の課税売上が10,271,910円であることを確認いたしました。

2025年度については消費税の課税事業者となります。

また、人件費の源泉所得税の徴収、納付が適切に行われていることを確認致しました。

所 見：

1. 当期の特徴

1. 一般会計

前期と比較した際の当期の会費収入は前期の約97.8%(金額にして40万年円の減少)となっております。事業収益については、今期は年会収益があったことが影響し、前期と比較して約308万円ほど減少しております。

経常費用全体については前期と比較し、約333万円ほど減少しております。今期は年会が無かったことに伴い、年会事業費が313万円ほど減少していること、HP関連費が減少したこと、またJSIAM-Letters刊行費については増加していることが影響しております。なお、刊行費の増加については委託費が今期は丸1年分が計上されていることによるものです。

また、予算と実績との比較については事業収益が予算と比較し増額となっております、特

に研究部会収益が予算額よりも94万円増加しております。また、会費収入についても予算額よりも63万円増加しており、結果として経常収益は予算と比較し178万円の増加となっております。

当期の事業費は予算に対して研究部会事業費が47万円増加していることなどから予算と比較し約59万円増加しております。結果、正味財産の増加は約212万円となっております。

2. 国際交流事業

ICIAM2023について、当期における経常増減額は7,043,598円の赤字となっております。予算額との比較において収益は3,992万円の増加、経常費用は5,127万円の増加となっております。

経常費用については委託費が約53%を占めております。会議費については会場費も含まれている金額となっております。什器備品費については、レンタル代がほとんどであり、資産として計上すべきものは無いものと思われま。

2024年度以降、支出があるものとお聞きしており、また補助金収入があるともお聞きしております。

法人税の所得金額の計算に関しては、収入の収益計上時期は、原則として、その収入すべき権利が確定した日の属する事業年度となります（法人税法22条2項、4項）。

そのため助成金等の交付決定がされた日の属する事業年度の収益として計上することとなりますが、あくまで法人税（収益事業）を計算する際の取り扱いとなります。

人件費につきましては、源泉所得税の徴収及び納税が適切に行われていることを確認致しました。

2. 法人税・地方法人税、法人住民税の申告

収益事業がある場合は、収益事業の収支について法人税・地方法人税・法人住民税の申告をする必要があります。学術団体の場合、企業展示や非会員への論文集販売などが該当します。また、年間の収入金額が8,000万円を超える場合は一定の計算書類を提出する必要があります。

今期より法人税の申告がござい。収益事業については赤字のため決算における税金については昨年と同様、法人住民税の均等割7万円のみとなっております。

法人住民税については、都内に事務所や事業所などがある法人に課税される税金で、「法人税割」と「均等割」からなっています。総務省のHPによれば均等割について『均等割とは読んで字のごとく、法人であれば等しく払う義務のある税金です。「等しい額」といっても世界にも進出している大きな法人と地域密着型の法人とでは、法人の規模が違います。そのため、都道府県民税では法人の資本金等の額で、市町村民税では法人の資本金等の額と従業者数で払う税金の額が分けられています。このように法人の規模に応じて区分けした上で、同一区分内においては同一の額を法人に課しています。均等割と法人税割の決定的な違いとしては、法人税割は国に法人税を納めている法人、

つまり黒字の法人だけが払うのに対して、均等割は赤字の法人も払わなければならないということです。言い換えると、均等割は、法人がどれだけ儲けたかに関係なく、地域社会の一員として支払う会費という性格が強いといえます。』との説明がなされております。

3. 消費税・インボイス制度(適格請求書発行事業者の登録)

今期の課税売上は1,027万円となっております。例年と異なり国際会議におけるブース展示が課税売上となり約747万円あったことが影響しております。消費税の納税義務についてはその課税期間の基準期間(法人は原則として前々事業年度)における課税売上高および特定期間における課税売上高が1,000万円以下の事業者は、課税事業者となることを選択した場合や、適格請求書発行事業者として登録を受けている場合を除き、原則として、その課税期間の納税義務が免除されています。

従いまして、2025年度は消費税の課税事業者となります。

2025年については簡易課税制度および原則計算を行うのか判定を行う必要がございます。

国、地方公共団体や公共・公益法人等に特定収入がある場合の仕入控除税額の調整の規定があります(消法60、消令75、消基通16-2-1~16-2-9)。

また、簡易課税を選択する場合には2024年度中に税務署に届出を提出する必要があります。

令和5年10月から消費税インボイス制度が導入されております。上記繰り返しとなりますが、免税事業者(基準期間の課税売上高が1,000万円以下の事業者)という扱いがインボイス制度の導入によって廃止されるわけではありませんが、適格請求書発行事業者に登録すると課税売上高の金額の多寡にかかわらず消費税の課税事業者となります。

2024(令和6)年5月13日(月)
東京都千代田区神田小川町3丁目26番8号
AtaGO税理士法
担当 税理士 飯塚 哲
TEL03-6803-39

印影保護のためフォーマットのみを示します。
実物は、総会当日、共有画面でお見せします

監 査 報 告

2024年 5月 13日

一般社団法人日本応用数理学会

会長 速水 謙 殿

一般社団法人日本応用数理学会

監事 矢野 良輔 ㊞

監事 石渡 恵美子 ㊞

私たちは、2023年4月1日から2024年3月31日までの会計年度における監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 収支計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、収支状況を正しく示していると認める。
- (2) 業務報告の内容は正しく示しているものと認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または定款により指摘すべき事項はないと認める。

以上

2024年5月24日 理事会

一般社団法人 日本応用数学会 2024（令和6）年度事業計画（案）

本学会は2024（令和6）年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）下記のとおり事業を行う予定である。

1. 会誌「応用数理」の刊行（6月，9月，12月，3月）
 3. 電子版「日本応用数学会論文誌」の刊行（6月，9月，12月，3月）
 4. Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics の編集
 5. JSIAM Letters（電子英文速報誌）の刊行
 6. 出版
 - ・シリーズ・応用数理 出版準備
 7. 年会の開催
 - ・9月14日～16日 京都大学
 8. 研究部会の育成促進
 - ・研究部会連合発表会（岡山大学）の開催
 9. 各種委員会活動の推進
 10. 国際活動
 - ・International Council for Industrial and Applied Mathematics(ICIAM)への貢献および海外の応用数理関連学会との交流，協力の推進
 - ・JSIAM 国際シンポジウムの開催に向けた準備活動
 - ・稲盛財団基金積立金の適切な運用による，国際的に活動する女性研究者の支援。具体的には，ICIAM2027における Olga Taussky-Todd Lecture の支援。
 11. 応用数理関連他学会との交流の推進
 12. 会員・賛助会員の増強に向けたサービス向上とコミュニティーの拡大
 13. 表彰
 - フェローの任命，業績賞，論文賞（和文論文誌，JJIAM，JSIAM Letters），学会誌ベストオーサー賞，年会若手優秀講演賞・ポスター賞，研究部会連合発表会優秀講演賞の表彰および各種日本応用数学会賞等の立ち上げの検討
 14. 若手層・女性研究者の学会参加の促進
 15. 産業界・社会との交流促進と連携強化
 16. 数理科学振興の政策課題の検討
 17. 一般社会への応用数理・数理科学の広報と啓蒙・教育活動
 18. その他
- 以上

収支予算案

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人日本応用数理学会

一般会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取入会金	60,000	50,000	10,000	過年度実績を参考に計上
正会員	36,000	50,000	△ 14,000	正会員入会金：2,000円×18名見込
学生会員	24,000	0	24,000	学生会員入会金：1,000円×24名見込
受取会費	16,893,750	17,040,750	△ 147,000	2024年3月29日会勢報告を根拠に計上
正会員	14,427,750	14,352,750	75,000	
正会員	13,550,000	13,475,000	75,000	当年度会費：12,500円×(1177名×90%) 過年度会費：12,500円×25名見込
シニア会員	869,000	869,000	0	当年度会費：11,000円×(88名×90%)
SIAM会員	8,750	8,750	0	当年度会費：8,750円×(1名×100%)(30%減免対象)
学生会員	616,000	638,000	△ 22,000	当年度会費：5,500円×(140名×80%)
賛助会員	1,850,000	2,050,000	△ 200,000	当年度会費：50,000円×(19社37口×100%)
事業収益	5,595,000	2,055,000	3,540,000	
応用数理広告料	75,000	75,000	0	応用数理34巻1-4号分
応用数理定期購読料	240,000	240,000	0	応用数理34巻1-4号分(715円×84件見込×4号分)
論文誌掲載料	320,000	480,000	△ 160,000	論文誌34巻2-4号・35巻1号分(40,000円×2件見込×4号分)
年会収益	2,500,000	0	2,500,000	2024年度年会参加費等(過年度実績をもとに計上)
セミナー収益	460,000	460,000	0	ものづくり研究会第11期技術セミナー
研究部会収益	1,500,000	500,000	1,000,000	第21回研究部会連合発表会
著作権料	500,000	300,000	200,000	学術著作権協会、近代科学社、科学技術振興機構
雑収益	1,000	1,000	0	普通預金利息、定期預金利息など
経常収益計	22,549,750	19,146,750	3,403,000	
(2) 経常費用				
事業費	13,186,000	9,470,000	3,716,000	
応用数理刊行事業費	5,020,000	5,220,000	△ 200,000	
委託費	2,200,000	2,400,000	△ 200,000	応用数理34巻2-4号・35巻1号分編集業務委託経費、J-STAGE経費(国際文献社)
会議費	20,000	0	20,000	
印刷製本費	2,300,000	2,300,000	0	応用数理34巻2-4号・35巻1号分(1700部54頁×4号分)(国際文献社)
諸謝金	500,000	520,000	△ 20,000	応用数理34巻2-4号・35巻1号分原稿料
論文誌刊行事業費	400,000	400,000	0	
委託費	400,000	400,000	0	論文誌34巻2-4号・35巻1号分オンライン査読システム使用料、J-STAGEアットロード作業(三秀舎)
会議費	0	0	0	
JSIAM-Letters刊行事業費	1,166,000	1,050,000	116,000	
委託費	1,166,000	1,050,000	116,000	JSIAM-Letters編集業務委託経費、J-STAGE経費(国際文献社)、J-STAGE投稿審査システム利用料
会議費	0	0	0	
JSIAMOnlineMagazine刊行事業費	900,000	800,000	100,000	
委託費	900,000	800,000	100,000	JSIAM Online Magazine編集業務委託経費(国際文献社)
諸謝金	100,000	0	100,000	JSIAM Online Magazine原稿料
年会事業費	3,500,000	0	3,500,000	2024年度年会開催経費(過年度実績をもとに計上)
セミナー事業費	200,000	500,000	△ 300,000	ものづくり研究会第11期技術セミナー、異分野・異業種研究交流会
研究部会事業費	2,000,000	1,500,000	500,000	第21回研究部会連合発表会
管理費	8,675,000	8,740,000	△ 65,000	
JJIAM購入費	300,000	300,000	0	JJIAM賛助頒布分購入費(Springer)
活動促進費	100,000	100,000	0	男女参画分担金、学会賞関係費用、広報関係費用等
関連団体等会費	190,000	190,000	0	横幹連合50,000円、理論応用力学20,000円、ICIAM会費USD800.00(円安傾向を考慮して計上)
保守費	1,550,000	1,300,000	250,000	GoogleCloudService使用料32,500円×12カ月、AmazonWebService使用料88,000円×12カ月、ホスティングサーバース料8,800円×12カ月(円安傾向を考慮して計上)
事務委託費	5,735,000	6,100,000	△ 365,000	
委託費	4,220,000	4,220,000	0	4-3月分業務委託費(見込)4,000,000円、選挙関連委託費(見積)220,000円(国際文献社)
HP関係費	600,000	600,000	0	WEB保守費49,500円×12カ月(想隆社)
印刷製本費	115,000	200,000	△ 85,000	4-3月分封筒代100,000円、コピー代実費15,000円(国際文献社)
通信運搬費	750,000	1,030,000	△ 280,000	4-3月分発送手数料・送料250,000円、学会誌4号分発送手数料・送料500,000円(国際文献社)
消耗品費	50,000	50,000	0	4-3月分賞状用紙代等(国際文献社)
会議費	250,000	250,000	0	Zoom使用料等
雑費	300,000	250,000	50,000	各種手数料(振込手数料・みずほファクター手数料・クレジット決済手数料等)
法人関連経費	250,000	250,000	0	監査対応報酬(AtaGO税理士法人)110,000円、登記変更費用50,000円、都民税均等割り70,000円
経常費用計	21,861,000	18,210,000	3,651,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	688,750	936,750	△ 248,000	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	688,750	936,750	△ 248,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	688,750	936,750	△ 248,000	
一般正味財産期首残高	45,833,980	44,897,230	936,750	
一般正味財産期末残高	46,522,730	45,833,980	688,750	
II 正味財産期末残高	46,522,730	45,833,980	688,750	

収支予算案

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人日本応用数理学会

国際交流事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
国際交流事業収益	0	200,000,000	△ 200,000,000	
雑収益	100	100	0	普通預金利息
経常収益計	100	200,000,100	△ 200,000,000	
(2) 経常費用				
事業費	0	195,700,000	△ 195,700,000	
国際交流事業費	0	195,700,000	△ 195,700,000	
委託費	0	195,000,000	△ 195,000,000	
表彰関係費	0	700,000	△ 700,000	
雑費	0	0	0	
経常費用計	0	195,700,000	△ 195,700,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	100	4,300,100	△ 4,300,000	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	100	4,300,100	△ 4,300,000	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	100	4,300,100	△ 4,300,000	
一般正味財産期首残高	11,800,053	7,499,953	4,300,100	
一般正味財産期末残高	11,800,153	11,800,053	100	
II 正味財産期末残高	11,800,153	11,800,053	100	

収支予算案

2024年 4月 1日から2025年 3月31日まで

一般社団法人日本応用数理学会

稲盛財団基金会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
雑収益	0	300	△ 300	定期預金解約のため
経常収益計	0	300	△ 300	
(2) 経常費用				
事業費	0	500,000	△ 500,000	
稲盛財団基金事業費	0	500,000	△ 500,000	
支払寄付金	0	500,000	△ 500,000	
経常費用計	0	500,000	△ 500,000	
評価損益等調整前当期経常増減額	0	△ 499,700	499,700	
評価損益等計	0	0	0	
当期経常増減額	0	△ 499,700	499,700	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	0	△ 499,700	499,700	
一般正味財産期首残高	2,500,913	3,000,613	△ 499,700	
一般正味財産期末残高	2,500,913	2,500,913	0	
II 正味財産期末残高	2,500,913	2,500,913	0	

一般社団法人 日本応用数理学会

2024 年度 定時社員総会

参考資料

目次

役員の退任と留任	1
選挙結果	2
学会誌編集委員会	4
論文誌編集委員会	6
JSIAM Letters 編集委員会	7
国際活動委員会	8
表彰委員会	10
ネットワーク委員会	13
出版委員会	14
総務委員会	15
規程類の整備について	16

2024（令和6）年6月21日

一般社団法人 日本応用数理学会

一般社団法人 日本応用数学会
退任・留任する役員の名簿

一般社団法人 日本応用数学会では、理事・監事の任期が2年と定められております。

2024年度定時社員総会終了時に退任または辞任する理事・監事（重任予定者を含む）は以下の通りです。

理事 9名

井手貴範（副会長）	吉田真紀（副会長）	大江貴司
荻田武史	梶原健司	齊藤宣一
関根晃太	長井秀友	松本純一

監事 1名

矢野良輔

2023年度から2024年度にかけて留任する理事・監事は以下の通りです。

理事 11名

速水謙（会長）	関川浩（副会長）	石田祥子
礒島伸	倉橋貴彦	曾我部知広
尊田嘉之	奈良高明	野津裕史
宮路智行	山本有作	

監事 1名

石渡恵美子

以上

一般社団法人 日本応用数学会 2024年度 代表会員選挙ならびに役員候補者選挙 選挙結果

投票総数と投票の成立

正会員数 1261 名(2023年11月末時点)に対し期日(2024年3月13日)までの投票総数が 423 票であり, そのすべてが有効投票の要件を満たしていることを確認しました. 有効投票数が全体の6分の1以上であり, 選挙規定第13条に基づき投票が成立することを宣言いたします.

投票結果

下記に示す投票結果にしたがい, 今回の立候補者全員が信任され, 代表会員 84 名が当選しました. 総会では, 今回の選挙結果を尊重して, この代表会員による役員選挙が行われ, 役員が決定されます.

副会長(改選数 2名, 候補者数 2名, 投票数 423票)

信任得票数 420票, 不信任得票数 3票の候補者	1名
信任得票数 419票, 不信任得票数 4票の候補者	1名

監事(改選数 1名, 候補者数 1名, 投票数 423票)

信任得票数 421票, 不信任得票数 2票の候補者	1名
---------------------------	----

理事(改選数 9名, 候補者数 9名, 投票数 423票)

信任得票数 421票, 不信任得票数 2票の候補者	2名
信任得票数 420票, 不信任得票数 3票の候補者	4名
信任得票数 419票, 不信任得票数 4票の候補者	2名
信任得票数 418票, 不信任得票数 5票の候補者	1名

代表会員(改選数 90名, 候補者数 84名, 投票数 423票)

信任得票数 422票, 不信任得票数 1票の候補者	2名
信任得票数 421票, 不信任得票数 2票の候補者	23名
信任得票数 420票, 不信任得票数 3票の候補者	49名
信任得票数 419票, 不信任得票数 4票の候補者	9名
信任得票数 418票, 不信任得票数 5票の候補者	1名

当選者一覧

[1] 役員候補者

副会長候補者 2名(改選数 2)

片岡 一郎 ((株)日立製作所)
松尾 宇泰 (東京大学)

監事候補者 1名(改選数 1)

花谷 嘉一 ((株)東芝)

理事候補者 9名(改選数 9)

相島 健助 (法政大学)
大林 一平 (岡山大学)
片岡 一郎 ((株)日立製作所)
坂上 貴之 (京都大学)
代田 健二 (愛知県立大学)
関根 晃太 (千葉工業大学)
長井 秀友 (東海大学)
松尾 宇泰 (東京大学)
丸野 健一 (早稲田大学)

[2] 代表会員 84 名

相島 健助 ‡	(法政大学)	石田 祥子 †	(明治大学)
石渡 恵美子 †	(東京理科大学)	磯島 伸 †	(法政大学)
井手 貴範	((株)アイシン)	伊藤 弘道	(東京理科大学)
今井 桂子	(中央大学)	今関 修	(鹿島建設(株))
今村 俊幸	(理化学研究所)	岩崎 悟	(大阪大学)
内田 幸寛	(東京都立大学)	梅田 裕平	(富士通(株))
エスカラ エマソン	(神戸大学)	大江 貴司	(岡山理科大学)
大田 佳宏	(Arithmer(株))	大林 一平 ‡	(岡山大学)
岡野 大	(愛媛大学)	荻田 武史	(早稲田大学)
奥富 秀俊	(東芝情報システム(株))	奥野 貴之	(成蹊大学)
尾崎 克久	(芝浦工業大学)	陰山 真矢	(岡山理科大学)
梶原 健司	(九州大学)	片岡 一朗 ‡	((株)日立製作所)
上岡 修平	(大阪成蹊大学)	神山 雅子	((株)ブリヂストン)
川原 仁志	(伊藤忠テクノソリューションズ(株))	木下 保	(筑波大学)
倉橋 貴彦 †	(長岡技術科学大学)	黒田 久泰	(愛媛大学)
劔持 智哉	(名古屋大学)	小磯 深幸	(九州大学)
小林 佑輔	(京都大学)	小松 瑞果	(神戸大学)
齊木 吉隆	(一橋大学)	齊藤 宣一	(東京大学)
榊原 航也	(金沢大学)	坂上 貴之 ‡	(京都大学)
櫻井 鉄也	(筑波大学)	佐々木 多希子	(武蔵野大学)
佐藤 一誠	(東京大学)	佐藤 寛之	(京都大学)
代田 健二 ‡	(愛知県立大学)	新谷 浩平	(トヨタ自動車(株))
水藤 寛	(東北大学)	鈴木 大慈	(東京大学)
関川 浩 †	(東京理科大学)	関根 晃太 ‡	(千葉工業大学)
曾我部 知広 †	(名古屋大学)	尊田 嘉之 †	(AGC(株))
高岡 浩一郎	(中央大学)	竹内 謙善	(香川大学)
多田野 寛人	(筑波大学)	田中 健一郎	(東京大学)
田中 大毅	((株)NTTデータ数理システム)	張 紹良	(名古屋大学)
土谷 隆	(政策研究大学院)	道工 勇	(埼玉大学)
長井 秀友 ‡	(東海大学)	中川 訓範	(兵庫県立大学)
中口 悦史	(大阪大学)	奈良 高明 †	(東京大学)
成島 康史	(慶應義塾大学)	野津 裕史 †	(金沢大学)
橋本 悠香	(日本電信電話(株))	花谷 嘉一 ‡	((株)東芝)
速水 謙 †	(国立情報学研究所)	福田 亜希子	(芝浦工業大学)
降籬 大介	(大阪大学)	堀之内 成明	((株)豊田中央研究所)
松尾 宇泰 ‡	(東京大学)	松本 純一	((国研)産業技術総合研究所)
丸野 健一 ‡	(早稲田大学)	水野 将司	(日本大学)
宮路 智行 †	(京都大学)	宮武 勇登	(大阪大学)
森山 園子	(日本大学)	矢野 良輔	(東京海上ディーアール(株))
山田 知典	(東京大学)	山中 脩也	(明星大学)
山本 光晴	(千葉大学)	山本 有作 †	(電気通信大学)
吉田 真紀	((国研)情報通信研究機構)	渡邊 勇	((一財)電力中央研究所)

†‡ 2024年度役員(†非改選役員12名, ‡改選役員候補10名)としての代表会員立候補者

学会誌編集委員会 2023(令和5)年度 活動報告

編集委員長 野津 裕史

1. 概要

学会誌「応用数理」(国際文献社発行) および JSIAM Online Magazine (JOM) の編集を行った。

委員長 野津 裕史 (金沢大学)

副委員長 水野 将司 (日本大学)

主査

【巻頭言・フォーラム】家田 雅志 (東京理科大学)

【論文・特集・チュートリアル】井田 有紀 (横浜国立大学)・田崎 創平 (北海道大学)

【インダストリアルマテリアルズ】伊藤 勝 (日本大学)

【ラボラトリーズ・研究部会だより】須志田 隆道 (サレジオ工業高専)

【学会会合報告・書評】高安 亮紀 (筑波大学)

【目次・電子データ】相島 健助 (法政大学)

【システム担当】小林 領 (帝京平成大学)

2. 発刊実績

2023 (令和5) 年度の発刊および活動実績は以下の通りである。

(1) 学会誌「応用数理」

- ・第33巻2号(6月), 第33巻3号(9月), 第33巻4号(12月), 第34巻1号(3月), を発行した。
- ・フォーラム「応用数理の遊歩道」として, 山田 道夫(第33巻), 中村 佳正(第34巻)の連載を行なった。
- ・チュートリアルとして, 田中 健一郎・岡山 友昭(第33巻), 大関 真之(第34巻)の連載を行なった。
- ・論文として8本, インダストリアルマテリアルズとして8本の記事を掲載した。
- ・第34巻1号に, 学会会合報告として19本, 書評として1本の記事を掲載した(下記「その他」の2点目参照)。

(2) ウェブ学会誌「JSIAM Online Magazine (JOM)」

- ・ラボラトリーズに1本, 学会会合報告に6本, 研究部会だよりに4本, 書評に1本の新規記事を公開した。

3. その他

- ・定期的に編集委員会を行い, 2023年度は第270回から第277回まで8回開催した。主

に Web 会議システム Zoom を用いて開催した。

- ・第 34 巻から，JOM 上で公開していたラボラトリーズ，学会合報告，研究部会だより，書評の記事を学会誌「応用数理」に掲載することを決定した。

論文誌編集委員会 2023(令和5)年度 活動報告

編集委員長・担当理事 荻田武史

1. 概要

日本応用数学会論文誌（以下、論文誌）は、原著論文（理論、応用、実用、ノート）およびサーベイ論文を要する和文の論文誌である。応用数理全般にわたる各分野からの投稿を奨励し、厳正な査読プロセスを経た論文が刊行される。1991年3月に第1巻1号を発刊以来、毎年1巻4号を発刊しており、2023年3月で第33巻1号となる。第25巻までは冊子体で発行され、第26巻からはJ-Stage上の電子ジャーナルとなった。また第25巻までのバックナンバーもすべてJ-Stage上に移行が完了している。

2. 発刊実績

令和5(2023)年度に第33巻2,3,4号および34巻1号を発刊した。各部門の論文数の内訳は以下のとおりである。

全9編：理論5編，応用1編，実用1編，ノート2編，サーベイ0編

掲載論文数の安定化を図るため、研究部会の特集等を継続的に組むなどの対策が必要である。

3. その他

令和5年度論文賞は、理論・ノート部門から1編ずつ計2編が選ばれた。残念ながら投稿が伸び悩む傾向は続いており、引き続き研究部会への依頼に基づく特集号の編成を検討する。また、サーベイ論文の拡充のため、編集委員会からの依頼論文について掲載料を免除する新規定を理事会にご認可頂いている。しかしながら、今日における日本語論文誌の位置づけ自体を含めて、根本的な戦略の練り直しが必要であると思われる。

論文誌編集委員会は、編集システムおよび掲載システムの全電子化に伴い、対面委員会を廃止し、必要に応じて電子的に委員会を開く格好をとっている。これにより、関東近郊に限られず全国広いエリアから編集委員を柔軟に採用できるメリットが得られ、その帰結として編集委員会全体として従前よりも適切に広い応用数学分野をカバーできている。他方で、論文誌の方向性など根本的なことについて議論する場は（電子的なものを除いて）なくなっているため、今後、社会情勢を考慮しつつ、年会時の対面委員会開催などを検討していく可能性がある。

学会誌編集委員会 2023(令和5)年度 活動報告

編集委員長 宮路智行 (京都大学)

1. 概要

JSIAM Letters は 2009 年に創刊された日本応用数理学会の英文電子ジャーナルである。科学技術振興機構 (JST) が運営する科学技術情報発信・流通総合システム J-STAGE <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsiaml> に公開されている。編集委員会は、(引継目的の在籍者を含む) 編集委員長(1 名), 副編集委員長(2 名), 幹事編集委員(7 名), 英文担当(2 名)および研究部会から推薦された 58 名の編集委員で構成されている (2024 年 3 月現在)。

英文 TeX 原稿で A4 版 2 段組み 4 ページ以内を原則とする。年会, 研究部会連合発表会および研究部会主催・共催の研究集会で講演されたことを投稿の条件とする。著者の少なくとも 1 名が日本応用数理学会の会員であれば掲載料(投稿料)は無料, そうでない場合は 20,000 円を求める。1 ヶ月以内に査読, 6 週間以内に採否を通知することを原則としている。

2015 年度から論文賞(JSIAM Letters 部門)を設け, 各年度 1~3 編の論文を選出している。

2. 発刊実績

3 月の研究部会連絡会と 9 月の年会において開催される編集委員会に合わせて投稿数と査読結果を集計している。近年の集計結果は次の表のとおりである(2024 年 2 月末現在)。

期間	投稿数	採録数	不採録数	査読中	平均査読日数
2021-09-01/2022-08-31	40	38	2	0	32.2
2022-09-01/2023-08-31	36	33	3	0	34.0
2023-09-01/2024-02-29	15	8	1	6	27.8

なお, 近年 5 年間の掲載年別の Volume における掲載論文数は次のとおりである。

Vol. 12 19 編 76 ページ

Vol. 13 23 編 88 ページ

Vol. 14 39 編 154 ページ

Vol. 15 33 編 132 ページ

Vol. 16 6 編 24 ページ (2024 年 3 月 31 日現在; 刊行中)

3. その他

2023 年度は年会が開催されなかったが, ICIAM 2023 で発表された論文に対して一定の条件のもと投稿機会が付与された。

以上

国際活動委員会 令和5年度 活動報告

委員長 梶原 健司

1. 概要

国際活動委員会は、日本応用数理学会の国際的な活動に関する様々な事業を行うための企画立案や提案、実施に向けた準備とその実績の評価や改善のための検討などを行い、当学会の国際的な活動を促進することを目的とする。以下の報告では敬称を省略する。

2. 令和5年度の主な取組とその成果

今年度は、新型コロナウイルス感染症流行からようやく解放され、世界的に国際活動は活発さを取り戻した。特に、ICIAM2023が早稲田大学で約5,500名の参加者を得て、過去に例がないほどの規模でのハイブリッド形式で開催され、大成功を収めた。これをはじめ、日本応用数理学会でも活発な国際活動が行われた。

(A) ICIAM2023 の開催

別途報告があると思われるが、コンパクトな会場配置と綿密な計画に基づく参加者へのきめ細かい配慮の下、過去最大の規模のハイブリッド形式と最多の参加者を得て、大成功を収めた。

(B) 海外のSIAM関連学会との連携

齊藤総務担当理事からの依頼で、ICIAM2023の会期中に他学会と理事レベルの交流が持たれた。

- ・ European Society for Mathematical and Theoretical Biology (ESMTB)
- ・ Australia New Zealand Industrial and Applied Mathematics (ANZIAM)
- ・ Society for Industrial and Applied Mathematics (SIAM)
- ・ Finnish Mathematical Society (SMY)

SMYとの交流は井手副会長が主導して発展し、令和6年8月26日～30日にヘルシンキ（フィンランド）で二国間交流ワークショップが開催予定である。

オーストラリア数学会とは相互協定を締結しており、その部会であるANZIAMの年会には例年JSIAM会員が参加している。2024年の年会は2月11日～2月15日にハートドルフ(サウスオーストラリア, オーストラリア)で行われ、11名の会員が発表を行った。ANZIAMとの交流は別途項目を設け報告する。

(C) ANZIAMとの交流事業

ANZIAMとはオーストラリア数学会を通じて相互協定を締結しており、毎年2月に開催される年会には日本応用数理学会会員が参加している。ICIAM2023会期中に行われた協議で、2024年2月に行われたANZIAM年会では、JSIAMからの参加をプログラムに記した上で、JSIAM会員に印をつけて可視化をしていただき交流促進を図ること、さらに、2年に一度交代で相互に招待をして何らかの交流事業を行うことで合意した。なお、上記ANZIAM年会において梶原がANZIAM会長（当時）のNathalie Thamwattana教授との協議を行い、その際に交流事業を2025年2月のANZIAM年会にJSIAMから招待講演者を招へいする（滞在費はANZIAM負担、往復交通費はJSIAMもしくは本人負担）ことから始めてはどうか（すなわち、その次は2027年にJSIAMがANZIAMを招待、2029年にはANZIAMがJSIAMを招待…という順番となる）という打診を受けた。これについては2025年のANZIAM年会での招へいを実施するかどうか、

ANZIAM 側に再度確認して進める。また、JSIAM 側ではどのような企画を行うか検討する必要がある。なお、2025 年の ANZIAM 年会は 2025 年 2 月 2 日（日）～6 日（木）にニューサウスウェールズ州北部の Coffs Harbour で開催予定。

3. ICIAM Board Meeting 2023 の報告

令和 5 年 8 月 26 日 9:00～17:00 に ICIAM Board Meeting 2023 が早稲田大学において対面と Zoom のハイブリッドで開催された。日本からの参加者は以下の方々（敬称略）であった。

対面：速水謙（JSIAM 会長）、大石進一（ICIAM2023 大会委員長）、梶原健司（ICIAM representative from JSIAM）、丸野健一（ICIAM representative from JSIAM）

オンライン：鎌田聖一（日本数学会）

以下、JSIAM に関連する重要事項を報告する。

1) ICIAM Dues（加盟費）について

2023年度の決算報告、財政状況の説明がされ、2024年度の予算、ICIAM Duesの提案がされ、承認された。財政状況を考慮しICIAM Duesは値上げされ、JSIAMを含むlarge full societyは820USDとなった。

2) TreasurerとOfficers-at-Largeについて

TreasurerとOfficers-at-Largeの選挙が行われた。Treasurerは現職のHeike Fassbenderのみが立候補し、再任が承認された。Officers-at-Largeは3名の枠に以下の8名が立候補した。

1. Luis Vega (Renewal)
2. Darren Crowdy (Imperial College, IMA 推薦)
3. Weizhu Bao (National University of Singapore, Singapore Mathematical Society 推薦)
4. Dhanesh Patel (The Maharaja Sayajirao University of Baroda, ISIAM 推薦)
5. Hyun-Min Kim (NIMS および Pusan National University, KSIAM および KMS 推薦)
6. Yvonne Stokes (University of Adelaide, ANZIAM 推薦)
7. 梶原健司 (九大 IMI, JSIAM 推薦)
8. Jose Carrillo (University of Oxford, ESMTB 推薦)

推薦者と候補者が経歴やICIAMに対してどのような貢献ができるかを説明したあと、投票が行われた。各メンバー学協会による投票（重みは Full Member: Large 4, Medium 2, Small 1, Associate Member: Large 2, Small 1）の結果、Luis Vega（再任）、Yvonne Stokes、梶原健司が選出された。任期は 2023 年 10 月より 4 年間である（1 度は更新可能）。

3) ICIAM 代表の交代について

JSIAMのICIAM 代表は梶原健司、丸野健一であった（加えて会長も Board Meeting には参加）が、上記の選挙結果を承けて梶原が代表を辞任することになるので、後任として、国際活動委員会は坂上貴之（京都大学）を選定した。丸野氏も代表を長期間務めており2024年6月にオンライン開催予定のBoard Meetingをもって辞任を希望しているため、後任を決める必要がある。

表彰委員会 2023(令和5)年度 活動報告

表彰委員長 井手 貴範

1. 概要

日本応用数理学会には以下の内部表彰があります。

- (1) 日本応用数理学会論文賞(日本応用数理学会論文誌、JJIAM、および JSIAM Letters)
- (2) ベストオーサー賞(学会誌「応用数理」)
- (3) 年会若手優秀講演賞(当該年度4月1日現在で35歳未満の講演者が対象)
- (4) 年会優秀ポスター賞(当該年度4月1日現在で35歳未満の講演者が対象)
- (5) 研究部会連合発表会優秀講演賞
- (6) 日本応用数理学会業績賞

本年度、表彰委員会は規程に従って上記各賞の選考委員を理事会に提案し、選考委員会による選考結果を理事会に上程致しました。上程した候補はすべて理事会で認められ、受賞の運びとなりました。年会若手優秀講演賞および年会優秀ポスター賞の選考は行われませんでした~~なかつた~~。これらに加え、例年通り、理事会を通じて外部賞への会員の推薦も行いました。

2. 表彰実績

(1) 日本応用数理学会論文賞

選考委員会の推薦に基づき、2020年から2022年の『日本応用数理学会論文誌』(第30巻1号～第32巻4号)から2編およびJJIAM(Volume 37 issue 1～Volume 39 issue 3)に発表された論文の中から計2編を論文賞候補に選定しました。また、2020年から2022年のJSIAM Letters(Volume 12～Volume 14)に発表された論文の中から3編を論文賞候補に選定しました。

① 理論部門

中屋 貴博, 田中 健一郎「二重指数関数型数値積分公式による行列符号関数の数値計算」
(日本応用数理学会論文誌31巻3号(2021), pp105-132)

② ノート部門

長谷部高広, 黒田敏敏, 寺本央, 正宗淳, 山田 崇恭「偏微分方程式による法線ベクトル場の構成」(日本応用数理学会論文誌30巻3号 (2020) pp249-258)

③JJIAM部門

Alexey Eremin, Emiko Ishiwata, Tetsuya Ishiwata & Yukihiro Nakata 「Delay-induced blow-up in a planar oscillation model」 (Japan J. Indust. Appl. Math. Vol. 38, (2021) pp1037-1061)

Yushi Hamaguchi 「BSDEs driven by cylindrical martingales with application to approximate hedging in bond markets」 (Japan J. Indust. Appl. Math. Vol. 38, (2021) pp425-453)

④JSIAM Letters部門

Hiroaki Bando, Shizuo Kaji, Takaharu Yaguchi 「Causal inference for empirical dynamical systems based on persistent homology」 (JSIAM Letters, vol. 14 (2022), pp.69–72)

Kansei Ushiyama, Shun Sato, Takayasu Matsuo 「Essential convergence rate of ordinary differential equations appearing in optimization」 (JSIAM Letters, vol. 14 (2022), pp.119–122)

Tomoaki Okayama, Katsuya Hirohata 「Theoretical comparison of two conformal maps combined with the trapezoidal formula for the semi-infinite integral of exponentially decaying functions」 (JSIAM Letters, vol. 14 (2022), pp.77–79)

(2) ベストオーサー賞

選考委員会からの推薦に基づき、2020年から2022年の学会誌『応用数理』（第30巻1号～第32巻4号）に発表された論文、インダストリアルマテリアルズの中からベストオーサー賞2編を理事会に上程しました。

①論文部門

高津飛鳥 「輸送計画，輸送写像，輸送経路-有限集合 R^2 の最適輸送理論の違い-」 (応用数理，2022年，第32巻，2号，pp69-79)

②インダストリアルマテリアルズ部門

上坂正晃，新田恭平，佐藤大輔，大田佳宏 「3次元点群のアノテーションを効率化するための半自動化」 (応用数理，2022年，第32巻，1号，pp32-36)

(5) 研究部会連合発表会優秀講演賞

各セッションからの推薦に基づき、以下の3件を研究部会連合発表会優秀講演賞候補に選定しました。

①森山 空良（東京大学）

「ミウラ折りの応用による空間曲線近似と構造特性解析」

②尾崎 克久（芝浦工業大学）

「正規化されていない疑似高精度計算の設計と精度維持のための手法について」

③浜口 広樹（東京大学）

「点配置同定問題における解の一意性」

(6) 日本応用数理学会業績賞

会員から推薦のあった業績から以下の1件を候補として選定しました。

岡本 久（学習院大学教授）

「力学系理論による流体力学方程式の数学解析と数値解析」

3. 外部推薦

2023年度は、3件(猿橋賞、現象数理学三村賞、現象数理学三村賞奨励賞)の外部推薦を行いました。

以上

ネットワーク委員会 2023(令和5)年度 活動報告

委員長 関根晃太

1. 概要

ネットワーク委員会は、Web やメールなどの当学会におけるネットワーク関連の実務を担当、ないしは支援することにより、当学会の活動をより円滑にすることを目的とする。

2. 発刊実績

ネットワーク委員会の主たる業務は以下のものである。

- (a) 学会員向け「日本応用数理学会 ML ダイジェスト」の編集（週1回の頻度）。
- (b) 理事会等、学会運営用各種メーリングリストの管理（約70程度）。
- (c) Web(研究部会)・メール用サーバの維持管理と支援（WebサーバはAmazon Web Service のクラウドサービスを、メールサーバはGoogle Workspace を利用している）。
- (d) ネットワークドメイン jsiam.org および iciam2023.org の維持管理（DNSサーバはDotster およびAmazon Web Service のクラウドサービスを利用している）。
- (e) ICIAM のWebサーバの管理(Web ページ <https://iciam.org> のサーバ管理)。
- (f) ICIAM 2023 のWebサーバ・査読システムの管理。
- (g) ICIAM 2023 のメーリングリストの管理（約10程度）。

3. その他

上記の業務を恒常的に遂行している。なお、(e) ICIAM のWebサーバの管理(Web ページ <https://iciam.org> のサーバ管理)は、ICIAM2023 の終了に伴い、2024年2月よりをネットワーク委員会から ICIAM 本体へサーバを移管し、業務は終了した。

4. 2023(令和5)年度ネットワーク委員会構成メンバー

委員長 関根晃太（千葉工業大学）

委員 降旗大介（大阪大学）

萩田武史（東京女子大学）

山中脩也（明星大学）

南畑淳史（関西国際大学）

小林 領（帝京平成大学）

出版委員会 2023(令和5)年度 活動報告

委員長 松本 純一

1. 概要

出版委員会では、シリーズ応用数理を7刊まで発刊しています。

2. 発刊実績

2023（令和5）年度の発刊実績は、特にごさいません。

3. 発刊準備

第8刊に向け、数論アルゴリズム、応用カオス、現在話題となっている研究テーマについて出版社も交えて検討を開始しました。

4. 過去の実績

シリーズ応用数理のこれまでの発行実績は以下のとおりです。

(<https://www.kyoritsu-pub.co.jp/series/100218/>)

【シリーズ応用数理 1 巻 数理的技法による情報セキュリティ】

日本応用数理学会 監修・萩谷 昌己・塚田 恭章編

発行年月：2010 年 7 月

【シリーズ応用数理 2 巻 公開鍵暗号の数理】

日本応用数理学会 監修・森山 大輔・西巻 陵・岡本 龍明著

発行年月：2011 年 3 月

【シリーズ応用数理 3 巻 折紙の数理とその応用】

日本応用数理学会 監修・野島 武敏・萩原 一郎編

発行年月：2012 年 9 月

【シリーズ応用数理 4 巻 有限要素法で学ぶ現象と数理－FreeFem++数理思考プログラミング－】

日本応用数理学会 監修・大塚 厚二・高石 武史著

発行年月：2014 年 2 月

【シリーズ応用数理 5 巻 応用のためのウェーブレット】

日本応用数理学会 監修・山田 道夫・萬代 武史・芦野 隆一著

発行年月：2016 年 1 月

【シリーズ応用数理 6 巻 数値線形代数の数理と HPC】

日本応用数理学会 監修・櫻井 鉄也・松尾 宇泰・片桐 孝洋編

発行年月：2018 年 8 月

【シリーズ応用数理 7 巻 選挙・投票・公共選択の数理】

日本応用数理学会 監修・大山達雄 編

発行年月：2022 年 3 月

以上

総務委員会 2023（令和5）年度 活動報告

委員長 曾我部知広

1. 概要

総務委員会が、学会の事業のうち、総務に関わるものを担当し、学会事務局を統括している。

2. 委員会名簿（2023年10月1日～2024年9月30日）

委員長（1年目） 曾我部知広（名古屋大学）理事

副委員長（1年目） 齊藤宣一（東京大学）理事

副委員長（1年目） 奈良高明（東京大学）理事

会計係

田中吉太郎（2年目）（公立ほこだて未来大学）

奥村真善美（1年目）（甲南大学）

広報・規定係

岩崎悟（2年目）（大阪大学）

陰山真矢（2年目）（岡山理科大学）

川越大輔（2年目）（京都大学）

西田優樹（1年目）（東京理科大学）

大森祥輔（1年目）（群馬工業高等専門学校）

延東 和茂（1年目）（近畿大学）

渉外係

小松瑞果（2年目）（神戸大学）

松井一徳（1年目）（成蹊大学）

3. 活動

会計係

学会事務局からの支出伺いを管理し、担当理事の指示のもとで、支出の可否を学会事務局に伝え、年間を通じて、学会の収支をチェックする。

広報係

学会ウェブのコンテンツの管理を行う。

渉外係

学会への協賛・協賛・後援等に対する対応を、担当理事の指示のもとで、事務局に指示する。
外部団体からの連絡等を、学会の担当者に引き継ぐ。

以上

規程類の整備・改正の記録

理事（総務担当） 齊藤 宣一

2023（令和5）年度理事会において以下の規程類の新規制定・整備・改正等を行った。

- 表彰規定 2023 年 9 月 29 日改正
第 12 章に研究部会の定める賞を加えた。
- 日本医用画像工学会（JAMIT）との覚書 2023 年 11 月 25 日制定
- 国際活動委員会規程 2024 年 3 月 29 日制定

以上